



トラウマを理解した ジャーナリズム実践をめざして

第1部 講演

デジタルの防弾チョッキをつくろう!

Amantha Perera氏



2月14日(土)

13:30-16:30

(日本時間)

使用言語

英語・日本語
(同時通訳あり)

参加費 無料

技術の進展による新たな脅威（TFT = Technology Facilitated Threats）と、それにアジア太平洋のジャーナリストが直面している実情を紹介し、表現の自由への影響を考察します。そして、ハイブリッドな労働環境でジャーナリストや情報専門家が自らを守るために「デジタル防弾チョッキ」を提案します。講演者は母国スリランカで内戦や津波災害を取材し、現在はオーストラリアのCentre for Journalism and Trauma Asia Pacific（旧DCAP）で研修を提供し、情報専門家の安全なハイブリッド・ワークスペースを大学院で研究しています。

第2部 報告

・トラウマ取材をするジャーナリストが受ける影響 一日韓の実態調査から

李美淑 (大妻女子大学准教授)

・オーストラリア研修報告と『私たちの宣言』

トラウマ取材を学ぶ日本のジャーナリストの会
(代表・河原理子)

「トラウマ取材」をテーマに報告します。取材報道する側の状況について、韓国と日本などの先行研究を李美淑准教授が紹介。トラウマを負った人への取材と、取材者らのセルフケア、組織の責任などについて2025年8月にDCAPで研修を受けた記者らが報告と提言します。

開催形式

ハイブリッド
(対面 & Zoom)
※参加登録者は
期間限定で
配信動画閲覧可

会場

東京大学本郷キャンパス
福武ホール地下2階
福武ラーニングシアター (先着70人)

参加申込はこちら→

申込み切: 2026年2月12日

<https://forms.gle/hnkJdaTrHtNvD3x38>



詳細 (日本語)

<https://baiforum.jp/events/en099/>

Details (EN)

<https://baiforum.jp/en/events/en099/>